

中に、顏色の蒼白になるものなきのあるものであるから、指導者は常に園児の顏色なきに注意して大事に至らない事前に之れを發見し、適當に處理することを忘れてはならないのである。

運動會の當日は、看護婦か、醫師の急救所を設け、萬一故障者の出た場合

には、早速手當をなし得る様にしなくてはならない。以上は運動會に對する極く一般的のことを見述べたに過ぎない

のであるから、更に、實際にあたつては、細案を立て、それが圓滑に行はれる様にせなればならないのである。

幼稚園の運動會は特に和かな氣分で行はれる様に立案せらるべきであつて、飽迄も、女學校や、中學校なきの如きものであつてはならない。何處もなくゆきりのある。然かも、引締まつた運動會でなければならぬ。

終始神經質になりそうな音ばかり出したりしないで、時には雄大を感じせる太鼓の音なきも聞ける様にするこ

よいと思ふ。子供が、こうした雰圍氣の中に活動する時は少しも飽くことなく、運動會の目的を果たすことが出来るであらう。

要は、子供達をして如何によく活動せしめ、如何にして喜ばせることが出

来るかといふことを主眼として立案されべきではあるまいか、即ち、子供本位に立案されるならば必ずや效果的な運動會が出来るであらうことを信ずるものである。

幼稚園に於ける運動會と遠足

東京 瑞穂幼稚園長

土川 五郎

り込まれた所、又全く學校を離れた世界を作られた所もある。

運動會の季節に入つて自分の姉兄が学校で運動會があるとか近傍の學校で行はれて居る場合に、幼児が要求を持ち出すのである。即ち其外部の刺戟から来る。

或は母と運動會を見に行く。場内高

く裝飾旗が掲げられ、周圍の紅白の幕、地上には圓形や縦横に描かれた白線、歩武堂々とコードに足並を揃へて整

其仕方については小學校と大差なく、唯小さくやる所と、遊戯會と名付けて居ても學校臭い大人の計畫が多分に盛

列、校長の親しみある嚴肅な訓話、此の祭り氣分に打たれる。競技が次々きこ遂行する、「ヨーデン」スタートの姿勢、決勝點に入つて優勝旗を受ける所、校長の前に賞を受くる光景、それくが幼兒の目に映する。殊に團體競技の越入れ、鈴割り、ダルマ送り、綱引、或は滑稽味のある競技なご思ひくに幼兒の腦中に收めらるゝ。

是等の印象が其翌日から幼稚園に働き出すのであらう。勝敗に至つては幼兒は實に無關心とも云ふべき状態である。これ幼兒の競争心は其萌芽を出したるに過ぎない時代にあるからあまり眼中にない有様である。

觀覽者としての父母兄姉は自分の子供の勝負如何に、又他組の勝負をも大いなる興味を以て之を見る。

かかる有様で勝敗がきの場面にも出でゝ終始する。唯其間に於て

唱歌遊戯或は行進遊戯が和かな音樂

美しきメロディー、勇壯なりズムにつれ

て行はれる表現は全く全校兒童こ観覽者をして陶然として佳境にある思ひをなさしめ、前後に殺風景な氣分を一掃する感がある。此の美的運動と音樂、これを取去る時は一抹の淋しさを感じる程人の感情を支配するものである。

以上述べた運動會によつて受けたる印象が園に於ての彼れ幼兒の内部的に刺戟となり、其模倣をなして遊ばんこの慾求となり、先生をして運動會開催迄に押して行くのであらう。

併し一考すべきは幼兒は決して運動會其物を要求するのではなく、其勝敗によつて樂しまんとするものではないことである。幼兒の要求する所は其模倣をして唯遊びたいのである、あの雰圍氣の中で集團的に遊びたいのである。故に幼稚園では

一、遊戯會と名付けて、徹頭徹尾「遊び」で終始したいのである。

二、主題は幼兒生活に興味、簡易、適切なものを撰びたい。しかもやさしく

いこいば。幼兒にわかり易いこいばでプロに表したい。

三、全時間は約二時間位がよい所でせう。

四、幼兒一人に少なくとも三回以上出場する様にしたい。

五、唱歌、遊戯、律動遊戯を團體的に

行ふ事は二回位を加へ一回は年少年長に分ち、一回は全體同時に行ひたる。

五種程度とし一齊に揃ふと云ふよりは其一人一人が眞剣に楽しく行はせたい。

こゝに我が瑞穂幼稚園では其以前に小學校より招待を受け運動會見物に行き、其場にて突然遊戯との要求に何の準備なく唯園で毎日なし居るものを行じたのに始まり、遂に二校から招待され之に答へるだけである。

本年は二校が同日に行はれたので二度のお務め、招待されて見物するのか、遊戯の演出に行くのか甚滑稽

な事になつた。

園内では樹木を多く植込んであるので遊戯會は行ひ難いが要求は幼兒から盛んに起ります。

故にいろいろ設備をして園内で各組に分けたり自由選擇の方法で保育室遊戯室で遊んで満足を與へて居るのでまだ充分とは申せない。

茲に幸に近く神戸幼稚園から送られたプログラムを御参考に供して此の項を終ります。

體育會順序

日時 昭和十四年十月三日

(自午前九時半
至午前十一時半)

- 一 整列(全幼兒)
- 二 國旗掲揚
- 三 遙 拜
- 四 愛國行進曲

- 1、お百姓 松、撫子組(男)
- 2、野菜運び 女

二 遠 足		4、散髪屋	3、だるま落し
幼稚園の遠足には小學校から受ける刺戟によつて發動する事が多い。併し彼の運動會のそれは大いに趣が異なる。		5、秋の實のり	6、健 康
1、お百姓 松、撫子組(男)	梅櫻組(男)	7、互に	8、月の世界
2、野菜運び 女	航空日本	9、航空日本	10、慰問袋
	興亞の子供	11、武 士	12、秋の野
	菊、紅葉組(女)	13、國境警備	14、國境警備
	海國日本	15、防空演習	16、防空演習
	各組幼兒	17、產業振興	18、産業振興
	各組幼兒	19、綱引	20、行 進

つて居る。

平素の幼稚園生活が四圍の境遇の全く異なつたしかも自由の天地に移される爲めに來る所の變化が幼兒の心境に反映してそこに大いなる活動が展開されるゝ喜びは到底園内の生活に比すべくもない。

かゝる幼兒の喜びは保姆さんの喜びとなり一層拍車を掛ける點なほは到底運動會に比する能はざるものがある。併しこゝ迄に至らしむる爲に其場所を擇む事が一々仕事である。其他の小さき注意と用意とは中々多い事で其苦心は實にこゝには盡せない程である。併し天氣もよし何もよし大成功であつた時の先生の喜びは又格別である。

この遠足を行ふに當つて小學校のそれと異なる所は、一人の受持ちが三十人位を引率して行く事はある幼兒さしては大いなる無理がある。勢ひ家庭からの附添を要する。私の經驗から致せば、家庭の附添を要する云ふ考へよ

りは、家庭ご合同して幼稚園の遠足即家庭の遠足ご云ふ立て前で行ふ事が幼児ごしても最もよい方法であるご考へて多年これを實行して居ます。未だこ

れによつて弊害のあつた事はなく又附添の出来得ない事情にある幼兒は之れを一團ごして保母が世話をする。又母が午前附添ふて午後には父が出先きから加はるもの、一家總出ご云ふのもあり、時には七十を越えた祖母一人で幼兒より老婆を見てやらねばご云ふ變體もある。この方法から得る所の利益は、豫想外に多いので幼稚園ごしては母の會より得る所より頗る自然の内に收得がある。

一、幼稚園ご家庭ごの親密の度を増す。

二、母其人を知り其様け方取扱ひ方を知る事が出来る。

三、時に思はざる幼兒の良い點缺けて居る點も又由て來る原因なご保育上参考ごなる點も知り得る。

四、お辦當の時はそれゞゝ家庭が一つのグループを作り樂しく食事する光

景は何ごも云へぬなごやかさが現出する。

以上の如き利益は合同の方法から生み出される收獲である。

茲に注意すべきは、幼兒のみの集まる時ご、家庭に幼兒をまかせて全體をまごめて行く事ごがはつきりご區別されねばならぬ事である。

こゝに實例を擧げれば、一ヶ所の集合した時は母の手元にある。これを幼兒だけの列を作り行進する時は家庭のものは其列の兩側にあつて幼兒の列は保母の支配下におかれれる。

動物園を見るごすれば、入口に於て家庭は幼兒の列のあごにつき觀覽の際に同じ形式を取るが又は家庭のものは其列後に其小供の後ろに立ちて共に觀覽する。あらしむる。かゝる際は全く幼兒は保母の下にて見る。終つて食事に移る時幼兒は家庭の下に歸る。終つ

て又列を作り見残りたる所を觀覽する。

此の方法で其場所對象の異なるにつけた臨機應變の手段に出る。

かくして一定の場所に集合する迄は家庭が連れて集まり、行進する時は保母の手に移り、目的地に至りて一度家庭に渡す等凡て園長の指揮により終始すれば、何の誤りもなく目的を十分に満喫する事が出来る。

解散は其目的地例へば動物園にあつては場内で解散し家庭に觀覽も隨意純家族的に他へ行くも御勝手先生もホットミーきご云ふ所、中々得がたい難有味が存する。

こゝに觀察ごか保育ごか大人がいやに固くならないで一日を遊びほうける方がよい。其間に觀察も自然に基が出来て、園内保育の時描き方にお話しに此の時整理をすればよい。「今日の遠足で觀察ごしては」なごと角張らないで。